

政官軍・経済界の重鎮から、学者・芸術家、ゴシップ的有名人まで

●近代日本を生きた10,302人●

明治大正人物事典

日外アソシエーツ 編 2011年7月刊行

I 政治・軍事・産業篇

A5・720頁 定価(本体17,000円+税) ISBN978-4-8169-2328-9



9784816923289

II 文学・芸術・学術篇

A5・740頁 定価(本体17,000円+税) ISBN978-4-8169-2329-6



9784816923296

圧倒的な収録人数の 本格的な人物事典

- 明治時代、大正時代に活躍した日本人10,302人を網羅した人物事典です。「I 政治・軍事・産業篇」「II 文学・芸術・学術篇」の2巻構成で、様々な人物を一覧できます。
- 後世に業績を残した人だけでなく、世相の話題を集めた人なども多数収録。各人物には、業績・話題・記録・職名・肩書など人物の横顔がわかるプロフィールを記載しているので、本格的な人名事典として利用できます。
- 各巻「分野別索引」付き。

収録人物例

I 政治・軍事・産業篇

- 【政治】 副島種臣(外務卿)、原敬(首相)、大木遠吉(貴院議員)
 【官界・法曹】 吉井友実(宮内次官)、城数馬(司法官)、江木衷(法律家)
 【軍人】 東郷平八郎(海軍大将・元帥)、横川省三(軍事探偵)、三浦虎次郎(軍歌「勇敢なる水兵」のモデル)
 【地方自治】 矢野光儀(小田県令)、平村ペンリウク(アイヌの首長)
 【社会運動】 大杉栄(無政府主義者)、奥村五百子(婦人運動家)
 【産業】 朝吹栄二(王子製紙会長)、古河潤吉(古河財閥2代目当主)、山下亀三郎(山下汽船創業者)、片岡直輝(大阪瓦斯社長)
 【宗教】 千家尊福(神道家)、結城無二三(牧師・新撰組隊士)
 【社会事業】 左近允孝之進(日本初の点字新聞を刊行した)、池上雪枝(少年感化院の先駆者)、川村矯一郎(保護司制度設立の先覚者)…など5,345人

II 文学・芸術・学術篇

- 【文学】 正岡子規(俳人・歌人)、辻潤(評論家)
 【新聞・出版】 野間清治(講談社創業者)、結城礼一郎(ジャーナリスト)
 【建築・美術】 滝大吉(建築家/滝廉太郎の従兄)、正木直彦(東京美術学校校長)
 【工芸・彫刻】 高村光雲(彫刻家)、柴田是真(蒔絵師)、中村秋塘(陶芸家)
 【絵画・書・写真】 黒田清輝(洋画家)、小川一真(写真家)、土岐源吾(旅絵師)
 【学術(人文・社会)】 吉野作造(政治学者)、清水晴風(郷土玩具研究家)
 【学術(理工学)】 浅野応輔(電気工学者)、柳栖悦(数学者/柳宗悦の父)
 【技術】 沖野忠雄(土木技術者)、臥雲辰致(ガラガラ紡績機の発明者)、梅錦之丞(眼科医、梅謙次郎の兄)、小池正直(陸軍軍医総監)、高橋瑞子(開業試験に合格した3人目の女医)
 【教育】 棚橋絢子(女子教育家)、手島精一(工業教育指導者)
 【音楽】 滝廉太郎(作曲家)、田中穂積(佐世保海兵団軍楽隊長)
 【演劇・演芸】 市川団十郎(9代目)(歌舞伎俳優)、牧野省三(映画監督)
 【スポーツ】 内藤克俊(パリ五輪レスリング代表・銅メダリスト)…など4,957人

2017.1

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	明治大正人物事典 I 政治・軍事・産業篇 定価(本体17,000円+税) ISBN978-4-8169-2328-9	冊
		明治大正人物事典 II 文学・芸術・学術篇 定価(本体17,000円+税) ISBN978-4-8169-2329-6	冊
■お名前			

日下部 四郎太 くさかべ・しろうた

地球物理学者 東北帝国大学教授
明治8年(1875)5月5日～大正13年(1924)7月3日
山形県東村山郡金井村(山形市) 山形中(旧制)〔明治27年〕卒 二高〔明治30年〕卒、東京帝国大学理科大学物理学科〔明治33年〕卒 理学博士〔明治39年〕 生家は農家で、6人きょうだいの三男。幼い頃に近所の寺に雛僧として出されたが、実家に戻り小学校に通う。山形中学から二高、東京帝国大学理科大学に進み、田中館愛橘と長岡半太郎の薫陶を受けた。岩石の弾性に関する論文を発表した後、明治39年海軍技師となるが、40年新設される東北帝国大学教授に内定し、ヨーロッパへ留学。各地を見て回り、日本人として初めて北極圏へ足を伸ばした。44年帰国して東北帝国大学理科大学教授に就任。大正8年欧米へ出張。12年理学部長。地球物理学を専門とし、大正3年「岩石の力学的研究」により帝国学士院賞を受けた。巧妙な諷刺と警句を得意とし、晩年は信仰物理学という独自の道を進んだが、バラの棘によって鼻に手で触ったことから著書に「北極探検談」「物理学汎論」「信仰物理学」「異国行脚」「信仰物理学」 帝国学士院賞〔大正〕 長男＝日下部 文雄 二男＝日下部 正雄(気象) 岳父＝芳野 世経(衆院)

日柳 三舟 くさなぎ・さんしゅう

教育家
天保10年(1839)～明治36年(1903)7月23日 〔〕 讃岐国仲多度郡榎井村(香川県) 〔〕 日柳 政愷 〔〕 讃岐琴平の大地主・日柳家に生まれる。幼時医学を志すが、荒川栗園に儒学を学んで文学に興味を持ち、少年期から詩作を始める。明治2年高松で兵部史生を勤め、5年大阪府大属に転じ、学務課長を務め、数十の学校を創設する。12年には大阪師範学校校長に就任し、訓導の育成にも尽力した。のち官を辞して北桃谷に実業学校を設立する。また盲啞学校・愛育社を起こした。一方、浪華文会を作り教材の整理・開発を行い、教科書を出版した。日本の国定教科書の原型を作った人物として知られる。 〔父〕＝日柳 燕石(博徒)

草野 清民 くさの・きよたみ

文法学者
明治2年(1869)4月6日～明治32年(1899)9月10日 〔〕 加賀国金沢(石川県金沢市) 〔〕 帝国大

既存の人物事典には
収録されていない人物も
多数収録!

日下部 鳴鶴 くさか

書家
天保9年(1838)8月1月27日 〔〕 近江国(部) 東作、旧姓・旧名彦根藩土田中因大の下部三郎右衛門の養に長じ、とりわけ書の死没に際しては呉せられた。平成3年中記念として「呉昌碩誌の碑」が建立され、二郎(土木技師・実業)

陸奥 宗光 むつ・むねみつ

政治家 外交官 伯爵 外相 農商務相 衆院議員(無所属) 神奈川県令
天保15年(1844)7月7日～明治30年(1897)8月24日 〔〕 紀伊国和歌山(和歌山県) 〔〕 幼名＝牛麿、号＝福堂、土峰、六石、変名＝伊達 陽之助、陸奥 小次郎 〔〕 紀伊和歌山藩士・伊達千広の子。江戸で安井息軒、水本成美に学んだ後、脱藩した父が住む京都に移り、尊攘運動に参加。この頃、坂本龍馬と知り合い、神戸の海軍操練所では土佐藩士と偽って勝海舟の教えを受けた。のち薩摩藩士を称し、伊達陽之助、陸奥小次郎などの変名を用いて活動。3年龍馬の亀山社中・海援隊に加入した。王政復古の政変後、新政府に出仕したが、政府の人事が薩長土肥に偏るのに疑念を抱き、3年和歌山藩の強化を期して渡欧。帰国後の4年、神奈川県令に任ぜられ、5年外務大丞を兼務。一方で地租の改正を提言し、それが大隈重信に認められて、6年大蔵省地租改正局長に抜擢されるが、7年辞職。8年元老院議員となるも、10年西南戦争で林有造らと反政府拳兵を企図したとして免官され、禁獄5年の刑に処せられた。16年に釈放され、17年伊藤博文の勧めで渡欧。19年帰国して外務省に入り、21年駐米公使となり、メキシコとの間に日本初の対等条約を調印。23年第一次山県内閣の農商務相として初入閣。24年第1回総選挙で和歌山県から出馬して当選、同内閣閣僚中唯一の衆院議員となり、続く第一次松方正義でも留任したが、25年松方の選挙干渉に反抗して辞職した。同年枢密顧問官。同年第二次伊藤内閣の外相に就任して不平等条約の改正に努力し、27年日英通商航海条約を調印。念願であった治外法権回収に成功した。一方で清国に対しては強硬外交を進めて日清戦争開戦に踏み切り、戦後の講和条約締結及び三国干渉などの処理にも力を尽くした。在任中の外交政策は「陸奥外交」といわれ、その辣腕振りから「カミソリ陸奥」と呼ばれた。この間、27年子爵、28年伯爵。29年日ごろの激務から肺病が悪化し辞職。療養中に外交記録「蹇蹇録」を執筆したが、昭和4年まで公表されなかった。 〔父〕長男＝陸奥 広吉(外交官・伯爵)、二男＝古河 潤吉(古河財閥2代目当主)、父＝伊達 千広(歌人・国学者)

武藤 環山 むとう・かんだん

衆院議員(国民協会)
天保7年(1836)12月20日～明治41年(1908)5月19日 〔〕 本名＝武藤 一忠(ムトウ イッチュウ) 〔〕 肥後国菊池郡原村(熊本県) 〔〕 安政2年(1855年)木下梅里に師事、のちその私塾の教授。菊池文芸倡方となり菊池文武講堂で経書を講じた。明治維新には諸種の公職に就き、14年自由民権論が起ると欽定憲法を主張し紫溟会を組織。のち国権党を結成、熊本県議となり、同参事会員、副議長として活躍。30年以来衆院議員当選2回。晩年は詩文を楽しみ、著書に「環山草堂詩文集」「男虎太編」がある。

武藤 金吉 むとう・きんきち

実業家 政治家 衆院議員(政友会) 帝国蚕糸重役
慶応2年(1866)5月15日～昭和3年(1928)4月22日 〔〕 上野国山田郡休泊村龍舞(群馬県) 〔〕 号＝龍山 〔〕 英吉利法律学校卒 〔〕 自由党に入り自由民権を唱え、尾尾鉦毒事件に活動。明治16年上京、法律学校卒業後は実業新聞、上野新聞を主宰。のち実業界に入り、帝国蚕糸、群馬農工銀行、山保毛織などの重役を務めた。23年以來群馬県から衆院議員当選8回、その間赤城事件に連座、獄中入候補して当選した。政友会に属し、43年ベルギーの万国議員会議に出席、前後3回欧米漫遊。イタリア、中国の蚕糸業を視察、蚕糸業発展に尽した。生産調査会委員、大日本蚕糸会評議員、大日本蚕糸同業組合中央特別議員などを務めた。昭和2年田中義一内閣の内務政務次官に就任。 〔〕 従四位勲二等

武藤 幸逸 むとう・こういつ

農事指導者 群馬県議
天保9年(1838)3月28日～大正3年(1914)8月20日 〔〕 本名＝新居 幸逸 〔〕 群馬県竜舞村長、群馬県議を務めた。明治11年共農舎を創設し、欧米式農法を取り入れた。

武東 晴一 むとう・せいいつ

築地警察署長
嘉永5年(1852)～大正1年(1912)12月24日 〔〕 周防国(山口県)

各人物の肩書・職業、
生没年月日、
名(本名・旧姓旧名・号など)、
出生地、経歴、学歴、
家族などがわかる